

課長たちが疲弊している。働き方改革関連法による残業規制、新型コロナウイルス感染症拡大によるリモートワークの一般化、副業の解禁。課長からすると部下は決まった時間で帰宅す

Smart Times

る、近くにいない、自分が知らない仕事もしている。一方で自分の働き方は変わっていない。管理職としてチームの業績と予算の管理責任、人事管理責任、コンプライアンス遵守が求められる、加えて、プレーイン



インディゴブルー会長

柴田 励司

1985年上智大文卒。マーサージャパン社長、カルチュア・コンビニエンス・クラブの最高執行責任者（COO）などを経て、2010年インディゴブルー社長、15年からの会長。

疲弊する課長たち救え！

グマネジャーとして個人が増え、課長を更に苦境に達成責任もある。ここに、追い込むだけだ。中途採用せよ、DX推進を、まず課長像を変えろ。それよ、ストレス耐性が弱いれをトップが宣言する。具若者が増えているから1。体的にはプレーイングとマネn1（ワンオンワン）ミージャーを分離することを

でも一人の課長にやらせる。だからこそあえて会社主導で「心の休息」をさせろ。デジタルデトックス。課を越える調整。これは部長が拒つよにする。昭和の課長ならまだしも、前インプットはしない。仕事述のとおり令和の課長はやるべき機会がある。最高だ。「心の休息」を経て自分に必要なことを自分で

ティングをせよ。「これ以勧めしたい。課長はチーム上何をしろっていうのか」という状況だろう。

課長職にメンタル不調者が増え、さすがに何かしな割を専門にするフロント職を招集して、自分の働きを配置する。課長には大好きな仕事を思い切りやって

スクリニング、ポータブルスキルの磨き直し、心のもちようのリセット。すべて自分の意思で自分のために必要なことに取り組んでもらう。課長像を変え、部長を

一方で予算管理、人事管理、これが一番重要だ。疲弊している課長に、会社と要なことに取り組んでもらう。課長像を変え、部長を「心の休息」機会を設ける。単に休みを与えるの変え、課長の心に休息を与えない。仕事として「休ませる」のだ。子育て、介護を意識し、御社の課長たちを疲弊ループから救ってほしい。